

数値計算 (I類2年・火曜3限)

連立一次方程式に対するLU分解による解法

(担当) 緒方秀教 (e-mail)ogata@im.uec.ac.jp

2018年11月13日 (火)

1 Gaussの消去法

次の連立一次方程式を考える.

$$A\mathbf{x} = \mathbf{b}, \quad \text{ここで, } A = \begin{pmatrix} a_{11} & a_{12} & \cdots & a_{1n} \\ a_{21} & a_{22} & \cdots & a_{2n} \\ \vdots & \vdots & & \vdots \\ a_{n1} & a_{n2} & \cdots & a_{nn} \end{pmatrix}, \quad \mathbf{x} = \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ \vdots \\ x_n \end{pmatrix}, \quad \mathbf{b} = \begin{pmatrix} b_1 \\ b_2 \\ \vdots \\ b_n \end{pmatrix}. \quad (1)$$

連立一次方程式 (1) に対する Gauss の消去法は次の通りである¹.

* $a_{ij}^{(1)} = a_{ij}$, $A^{(1)} = A$ とおく.

$$k = 1, 2, \dots, n-1 \text{ に対して} \\ \left[\begin{array}{l} i = k+1, k+2, \dots, n \text{ に対して} \\ \left[\begin{array}{l} m_{ik} = a_{ik}^{(k)} / a_{kk}^{(k)}; \\ j = k+1, k+2, \dots, n \text{ に対して} \\ \left[\begin{array}{l} a_{ij}^{(k+1)} = a_{ij}^{(k)} - m_{ik} a_{kj}^{(k)}; \\ b_i^{(k+1)} = b_i^{(k)} - m_{ik} b_k^{(k)}; \end{array} \right. \end{array} \right. \end{array} \right.$$

課題1

Gauss 消去法 C ソースプログラム `gauss_elim.c` を入手・コンパイルして, 実行せよ
C プログラムは緒方のホームページから入手すること (<http://www.uec-ogata-lab.jp/> → 「教育ページ」 → 「(授業) 数値計算 (2018 年度)」 → 「11 月 13 日 (火): プログラミング演習 1 : 連立一次方程式の数値解法」とアクセス). ただし, セキュリティの理由から ZIP 圧縮してあるので, 解凍して用いること.

¹下記の C プログラム `gauss_elim.c` では, 行列 $(a_{ij}^{(1)}), (a_{ij}^{(2)}), \dots$ 各々に 2 次元配列を割り当てることはせずに, 一つの配列 `a[i][j]` に行列 $(a_{ij}^{(k)})$ ($k = 1, 2, \dots$) を上書きしている. 同様に, ベクトル $(b_i^{(k)})$ ($k = 1, 2, \dots$) は配列 `b[i]` に上書きしている.

2 LU 分解

Gauss の消去法から行列 A に対する掃き出し演算のみ取り出せば、LU 分解が得られる。すなわち、

$$\begin{array}{l}
 k = 1, 2, \dots, n-1 \text{ に対して} \\
 \left[\begin{array}{l} i = k+1, k+2, \dots, n \text{ に対して} \\ \left[\begin{array}{l} m_{ik} = a_{ik}^{(k)} / a_{kk}^{(k)}; \\ j = k+1, k+2, \dots, n \text{ に対して} \\ \left[\begin{array}{l} a_{ij}^{(k+1)} = a_{ij}^{(k)} - m_{ik} a_{kj}^{(k)}; \end{array} \right. \end{array} \right. \end{array} \right. \\
 \Downarrow \\
 A = LU, \quad L = \begin{pmatrix} 1 & & & & \\ m_{21} & 1 & & & \\ m_{31} & m_{32} & 1 & & \\ \vdots & \vdots & \ddots & \ddots & \\ m_{n1} & m_{n2} & \cdots & \cdots & 1 \end{pmatrix}, \quad U = \begin{pmatrix} a_{11}^{(1)} & a_{12}^{(1)} & \cdots & a_{1n}^{(1)} \\ & a_{22}^{(2)} & \cdots & a_{2n}^{(2)} \\ & & \ddots & \vdots \\ & & & a_{nn}^{(n)} \end{pmatrix}.
 \end{array}$$

連立一次方程式 $A\mathbf{x} = \mathbf{b}$ を解くには、方程式を

$$LU\mathbf{x} = \mathbf{b}, \quad \text{すなわち,} \quad \begin{cases} L\mathbf{y} = \mathbf{b} \\ U\mathbf{x} = \mathbf{y} \end{cases}$$

と書き直し、 \mathbf{y}, \mathbf{x} をそれぞれ前進代入、後退代入で求める。すなわち、

$$\begin{aligned}
 y_i &= b_i - \sum_{j=1}^{i-1} m_{ij} y_j \quad (j = 1, 2, \dots, n), \\
 x_i &= \frac{1}{a_{ii}^{(i)}} \left(y_i - \sum_{j=i+1}^n a_{ij}^{(i)} x_j \right) \quad (i = n, n-1, \dots, 1).
 \end{aligned}$$

課題 2

行列 A を各自自由を選んで、課題 1 で用いた C プログラム `gauss_elim.c` を書き直して、行列 A に対する LU 分解のプログラムを作成し実行せよ。そして、LU 分解が正しく行われていることを確認せよ（積 LU が行列 A に一致することを確認する）。さらに、ベクトル \mathbf{b} を各自自由を選んで、連立一次方程式 $A\mathbf{x} = \mathbf{b}$ を LU 分解により解くプログラムを作成し実行せよ。

3 枢軸選択付き LU 分解

LU 分解は、途中で「枢軸要素」 $a_{kk}^{(k)}$ が 0 になると計算ができなくなる。また、 $a_{kk}^{(k)} \neq 0$ であっても 0 に非常に近い値ならば、計算の精度が悪くなる。そのため、掃き出し演算ごとに行の入れ替えを行って、枢軸要素がある程度の大きさになるようにする。

行の入れ替えをするには、インデックスベクトル $\mathbf{p} = (p(1), \dots, p(n))^T$ を用意して、行の入れ替えの情報を \mathbf{p} に書き込むようにする。

$$\begin{aligned} & \mathbf{p} = (1, 2, \dots, n)^T \text{とおく;} \\ & k = 1, 2, \dots, n-1 \text{ に対し} \\ & \left[\begin{array}{l} |a_{p(I)k}^{(k)}| = \max_{k \leq i \leq n} |a_{p(i)k}| \text{ なる添字 } I \text{ を見つける;} \\ p(k) \text{ と } p(I) \text{ の値を入れ替える;} \\ i = k+1, k+2, \dots, n \text{ に対して} \\ \left[\begin{array}{l} m_{p(i)k} = a_{p(i)k}^{(k)} / a_{p(k)k}^{(k)}; \\ j = k+1, k+2, \dots, n \text{ に対して} \\ \left[\begin{array}{l} a_{p(i)j}^{(k+1)} = a_{p(i)j}^{(k)} - m_{p(i)k} a_{p(k)j}^{(k)}; \end{array} \right. \end{array} \right. \end{array} \right. \end{aligned}$$

結果として次の LU 分解を得る。

$$PA = LU,$$

P は行の入れ替えを表す置換行列,

$$L = \begin{pmatrix} 1 & & & & \\ m_{p(2)1} & 1 & & & \\ m_{p(3)1} & m_{p(3)2} & 1 & & \\ \vdots & \vdots & \ddots & \ddots & \\ m_{p(n)1} & m_{p(n)2} & \cdots & \ddots & 1 \end{pmatrix}, \quad U = \begin{pmatrix} a_{p(1)1}^{(1)} & a_{p(1)2}^{(1)} & \cdots & a_{p(1)n}^{(1)} \\ & a_{p(2)2}^{(2)} & \cdots & a_{p(2)n}^{(2)} \\ & & \ddots & \vdots \\ & & & a_{p(n)n}^{(n)} \end{pmatrix}.$$

したがって、連立一次方程式 $A\mathbf{x} = \mathbf{b}$ は

$$LU\mathbf{x} = P\mathbf{b} = (b_{p(1)}, b_{p(2)}, \dots, b_{p(n)})^T, \quad \text{すなわち, } \begin{cases} L\mathbf{y} = P\mathbf{b} \\ U\mathbf{x} = \mathbf{y} \end{cases}$$

に帰着される。

課題 3

行列 A を各自自由に選んで、行列 A に対する枢軸選択付き LU 分解のプログラムを作成し実行せよ。

さらに、ベクトル \mathbf{b} を各自自由に選んで、連立一次方程式 $A\mathbf{x} = \mathbf{b}$ を枢軸選択付き LU 分解により解くプログラムを作成し実行せよ。